



Press Release

公益財団法人 JR西日本あんしん社会財団
〒530-8341 大阪市北区芝田二丁目4-24
TEL 06-6375-3202 FAX 06-6375-3229



開催のお知らせ

- 1 日 時 2018年3月4日(日) 13:30~15:00 ※13:00 開場
- 2 会 場 松下IMPホール (JR・京阪 京橋駅より徒歩5分)
- 3 プログラム ○主催者挨拶
JR西日本あんしん社会財団 理事長 佐々木 隆之 (ささき たかゆき)

○講演 (敬称略)

「どうせ死ぬのになぜ生きるのか」

名越 康文 精神科医、相愛大学客員教授、高野山大学客員教授

[名越 康文 (なこし やすふみ) 氏 プロフィール]

1960年奈良県生まれ。近畿大学医学部卒業後、大阪府立中宮病院(現：大阪府立精神医療センター)にて、精神科救急病棟の設立、責任者を経て、1999年に同病院を退職。その後も臨床に携わる一方で、テレビ・ラジオでコメンテーター、映画評論など様々な分野で活躍中。専門は思春期精神医学、精神療法。

著書に『心がフッと軽くなる「瞬間の心理学」』(角川SSC新書)、『自分を支える心の技法 対人関係を変える9つのレッスン』(医学書院)、『どうせ死ぬのになぜ生きるのか』(PHP新書)、『SOLO TIME (ソロタイム)「ひとりぼっち」こそが最強の生存戦略である』(夜間飛行) など多数。



- 4 主 催 等 主催/公益財団法人 JR西日本あんしん社会財団
協力/西日本旅客鉄道株式会社
- 5 定 員 800名 (参加無料)
※事前のご応募が必要です。
※応募者多数の場合は抽選とし、当選者の発表は参加証の発送(2月19日頃予定)をもって代えさせていただきます。
※当日は、参加証をお持ちの方のみ入場していただけます。
- 6 応募方法 ホームページ (<http://www.jrw-relief-f.or.jp/>) からご応募ください。
※ハガキでもご応募いただけます。「第8回いのちのセミナー受講希望」と明記のうえ、参加される方の氏名(フリガナ)・郵便番号・住所・電話番号を記載し、下記の宛先へお送りください。
〒530-8341 大阪市北区芝田二丁目4番24号 JR西日本あんしん社会財団
※1名様1回(ハガキは1枚)限りのご応募とさせていただきます。また、1回に2名様以上でのご応募は受けできませんので、あらかじめご了承ください。
- 7 応募締切 2018年2月8日(木) ※ハガキの場合は必着
- 8 そ の 他 報道関係者用の座席をご用意いたします。取材をご希望の場合は、2018年2月28日(水) 17:00までに当財団までご連絡いただきますようお願いいたします。(TEL: 06-6375-3202)
なお、インタビューなど、講演とは別の時間を必要とする場合は、講演者側と調整のうえ回答させていただきます。
セミナーの概要は、ホームページ (<http://www.jrw-relief-f.or.jp/>) でもご覧いただけます。

<p>第 1 回 2017 年 5 月 28 日 (日) 岸見 一郎 哲学者</p> <p>「よく生きるということ」 ～「いのち」の価値～」</p>		<p>1956 年京都府生まれ。京都大学大学院文学研究科博士課程満期退学(西洋哲学史専攻)。専門の哲学に並行して、アドラー心理学を研究。京都教育大学教育学部、甲南大学文学部、奈良女子大学文学部非常勤講師などを経て、現在、京都聖カタリナ高等学校看護専攻科(心理学)非常勤講師。著書に『嫌われる勇気』『幸せになる勇気』『生きづらさからの脱却 アドラーに学ぶ』『アドラー 人生を生き抜く心理学』など多数。</p>
<p>第 2 回 2017 年 7 月 25 日 (火) 安田 一之 大阪学院大学教授 臨床心理士</p> <p>「つなぐ ～あなたが今つなぎたいものは何だろうか～」</p>		<p>1946 年京都府生まれ。鳴門教育大学大学院学校教育研究科修士課程修了。比叡山高等学校、大阪学院大学高等学校の教諭を経て、現在、大阪学院大学教授。専門は臨床心理学・教育学。臨床心理士。約 30 年間、自殺予防を主な目的とした電話相談員をボランティアで務める。教育現場における心理的問題や自死・自殺問題に関心を持ち、「コラージュ療法」を自死遺族のグリーフワークなどに応用実践している。著書に『心の教育とカウンセリング』(共著)。</p>
<p>第 3 回 2017 年 8 月 18 日 (金) 釈 徹宗 相愛大学教授、如来寺住職 NPO 法人リライフ代表</p> <p>「仏教が語るいのち」</p>		<p>1961 年大阪府生まれ。相愛大学人文学部教授。博士(学術)。浄土真宗本願寺派如来寺住職。NPO 法人リライフ代表。日本宗教学会評議員。日本仏教学会理事。宗教思想や宗教文化の領域において、比較研究や学際研究を行っている。著書に『ブッダの伝道者たち』『死では終わらない物語について書こうと思う』『落語に花咲く仏教 宗教と芸能は共振する』など。</p>
<p>第 4 回 2017 年 10 月 6 日 (金) 若松 英輔 批評家、随筆家</p> <p>「見えない涙 ～かなしみの詩学～」</p>		<p>1968 年生まれ。1992 年慶應義塾大学文学部仏文科卒業。2007 年「越知保夫とその時代 求道の文学」にて、三田文学新人賞を受賞。2016 年『叡知の詩学 小林秀雄と井筒俊彦』にて、西脇順三郎学術賞を受賞。著書に『井筒俊彦 叡智の哲学』『イエス伝』『魂にふれる 大震災と、生きている死者』『生きる哲学』『霊性の哲学』『生きていくうえで、かけがえのないこと』『言葉の贈り物』『見えない涙』など多数。</p>
<p>第 5 回 2017 年 10 月 27 日 (金) 本郷 由美子 大阪教育大学附属池田小 児童殺傷事件被害者遺族 精神対話士</p> <p>「生きる力 ～愛(かな)しみと 共に生きて～」</p>		<p>2001 年に大阪教育大学附属池田小学校児童殺傷事件で当時小学校 2 年生だった愛娘を亡くす。2005 年精神対話士の資格を取得、心の支援活動を開始。2014 年スピリチュアルケア師(専門)資格認定。精神対話士・グリーフケアワーカーとして、事件や事故の被害者、東日本大震災の被災者の方々や身近な人を亡くした方の悲しみに寄り添う活動のほか、いのちの重さ・大切さを伝える講演や授業を行っている。その他、グリーフパートナー歩み代表、グリーフサポートやまぐちスーパーバイザーなども務める。著書に『虹とひまわりの娘』など。</p>
<p>第 6 回 2017 年 11 月 24 日 (金) 川島 実 医師 華厳宗僧侶</p> <p>「これが私の歩く道」</p>		<p>1974 年京都府で生まれ、奈良市で育つ。東大寺学園中・高等学校、京都大学医学部卒。在学中にボクシングでプロデビューし、2000 年度西日本新人王。引退後、自給自足を目指して山奥で暮らした時に僻地医療と出会い、その後も居を転々としながら救急、地域医療を学ぶ。2011 年、東日本大震災をきっかけに気仙沼市立本吉病院院長。被災地で在宅診療を軸に地域医療を再建する。2014 年に同病院を退職後、奈良に帰り、東大寺で得度。現在はフリーの医師として暮らし、2 週間かけて一周するペースで気仙沼、京都、奈良の各所を回り、病院診療や在宅医療に取り組んでいる。</p>
<p>第 7 回 2018 年 1 月 12 日 (金) 佐々木 慈瞳 音羽山観音寺副住職</p> <p>「いのちのおわりのつづき」</p>		<p>中央大学卒業、早稲田大学大学院人間科学研究科修了。中央大学の事務局で 10 年間勤務の後、高野山真言宗と融通念仏宗で得度し、音羽山観音寺副住職となる。東北大学大学院の臨床宗教師研修 2 期生。現在、奈良県教育委員会スクールカウンセラーとして複数の小中学校を巡回するほか、奈良県総合医療センターがんサポートチーム心理士、西奈良中央病院緩和ケア病棟臨床宗教師として活動している。人の輪と自然の恵みに支えられて生きる音羽山観音寺の暮らしは、NHK E テレ『やまと尼寺精進日記』で毎月末の日曜日夕方に放送中。</p>
<p>第 8 回 2018 年 3 月 4 日 (日) 名越 康文</p>		<p>(今 回 募 集)</p>